

第10回 B：国際理解と国際協力

(1) 生活文化の多様性と国際理解

## ものづくりが暮らしを支えている？ ～生産する産業と生活～

監修・講師  
中村 光貴

### 学習のねらい

農業や工業をはじめとするさまざまな産業は、時代とともにどのように変化し、発展してきたのでしょうか。そして、世界各地の人々の生活にどのような影響を与えてきたのでしょうか。世界各地で共通して見られる変化や影響や、一部の地域においてのみ見られる特徴的な変化や影響について、その要因とともに考えてみましょう。

### キーワード

自給的農業／商業的農業／企業的農業／緑の革命／  
高収量品種／自給率／付加価値／軽工業／重化学工業／先端技術産業／  
資本／技術／国民総所得（GNI）／輸入代替型工業／  
輸出指向型工業／改革開放政策／世界の工場／グローバル化

### 食生活を支える農業

世界各地では、さまざまな農業が行われています。その理由として、自然条件や社会条件の地域による違いをあげることができます。自然条件とは、気温や降水量、地形などの違いです。一方で、社会条件の違いとしては、農業経営の違いを一例としてあげることができます。もともとは、自給自足のために世界各地で始められた農業（＝自給的農業）でしたが、ヨーロッパを中心に、産業革命以降（18世紀後半～）の都市人口の増加や経済の発展に伴って、都市住民へ農作物を販売する機能を備えた商業的農業がうまれました。その後、商業的農業は、南北アメリカ大陸やオーストラリアなどでさらに大規模な農業経営を行う企業的農業へと発展しました。

第二次世界大戦後、東南アジアや南アジアの発展途上国では、稲や小麦の収穫量が伸び悩んでいました。そこで、国際的な農業機関で研究開発された高収量品種が各地で導入されました。これにより収穫量を飛躍的に増大させることに成功し、食料自給率は大幅に改善しました。この農業の革新のことを「緑の革命」と呼びます。急激な人口増加に対応するために穀物を増産することは、各国にとって必要不可欠でした。

## 現代的な暮らしを支える工業

工業とは、農作物や鉱産資源などを加工して新しい価値（＝付加価値）を加え、有用な製品をつくる産業です。近代工業は、産業革命以降に繊維製品や食料品などの消費財を生産する軽工業から始まりました。その後、鉄鋼や機械などの生産財をつくる重工業、これが20世紀になると自動車や航空機、化学製品などを生産する重化学工業へと発展しました。近年では情報通信技術（ICT）関連やバイオテクノロジーを用いた先端技術産業が急速に成長しています。

軽工業に比べ、重化学工業や先端技術産業の方が、製品を開発・生産するための資本は多く、高い技術力が必要となります。また、生産される製品の付加価値も高くなります。そのため、工業の中心が重化学工業や先端技術産業である国ほど工業生産額は大きく、軽工業が中心の国ほど小さくなる傾向があります。これに対応するように、工業が発展している先進国では一人当たり国民総所得（GNI）の値も高くなります。このように、国の経済力は、その国で中心となる工業の種類と関係があります。

一般的に工業化のはじめは、軽工業であり、技術力や資本を徐々に蓄え、重化学工業、そして先端技術産業へとその重心は移動していきます。工業生産額に関するさまざまな統計をもとに、日本やその他の国々の工業発展の様子をみてみましょう。

## 世界の工場化と生活への影響

近年、「世界の工場」と呼ばれる中国の工業は、どのように発展してきたのでしょうか。中国は1949年の建国後、政府が経済全般を統括する計画経済が導入され、輸入に依存していた工業製品の国産化を目指す輸入代替型工業が推進されました。しかしその一方で、経済の伸び悩みが課題でした。この状況を打開するために、1970年代末から市場経済のしくみを取り入れ、海外からの資本を受け入れる改革開放政策に転換しました。そこでは、先進国企業の資本や技術を積極的に導入し、中国国内の安く豊富な労働力と結びつけて、工業製品を安価に大量に生産して輸出する、輸出指向型工業が導入されました。中国は現在、多くの工業製品で世界最大の生産国、輸出国に成長し、「世界の工場」と呼ばれるようになりました。また、経済発展によって豊かになった中国は、その人口の多さと旺盛な購買力から「世界の市場」とも呼ばれるようになっていきます。

グローバル化が急激に進展する中、日本に暮らす私たちが普段の生活で消費する農産物や使用する工業製品は、海外からの輸入にその多くを頼っています。輸入品の安定した供給を継続させるためには、どのような課題があるかを考察してみましょう。